

同意を求めながら話す

集団解決の話し合いで、子供の一人が意見をワンフレーズで話すときが多い。自分の意見を言う。相手はその意見をまず聞く。自然なことだがここに課題はないだろうか。聞き手がしっかり聞いていないと何を言ったか忘れたり、相手の考えと自分の考えの練り上げがうまく出来ない子供を多く見てきた。その解決策はないだろうか。大岱小学校時代に研究した「学習スキル」をご紹介します。

1 学習指導要領（国語）＊文部科学省

国語科の目標に、話す順序を考える、相手に応じて話す、相手から聞いて声に出したり、尋ねたり応答するなどとある。ここに「同意を求めながら話す根拠」を見い出せる。大岱小学校では、「学習スキル」として全教室に掲示していた。

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄の順序を考えること。

イ 相手に伝わるように、行動した事や経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。

ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。

イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。

2 相手の同意を求める話し方＊新潟大学、大岱小学校

国語・話し合ったり、説明し合ったりする場面で、既知の事柄について話すときに、「～ですよ」「～じゃないですか」と確認しながら話させる。

社会・課題についての話し合いの場面で、相手の発言を受けて「〇〇さんは～と言いましたよね」と話させる。

・見学、調査した事実や資料を基に考える場面で、事実や資料を示して、「～はこうなっていますよね」と話させる。

算数・自分の考えを説明する場面で、「～ですね、ここまでいいですか」と途中の段階でも相手に確かめさせながら話させる。

理科・実験や観察の結果を話す場面で、「〇〇さんは～と言ったじゃないですか」と同意を求め、友達の説明につなげて話させる。

音楽・自分の考えを説明する場面で、楽譜の事実を示して、「～ですよ」と確かめながら、話させる。

道徳・主人公の心情を説明する場面で、「〇〇さんは、～と言いましたよね」と同意を求めながら話させる。

特別活動・話し合いの場面で、相手に「～ですよ」と同意を求めながら話させる。

総合・話し合いの場面で、相手を説得するために「～ですよ」などと同意を求めながら話させる。

上記は、新潟大学附属小学校の研究の柱が学習スキル（ベーシック・ユニバーサルデザイン）だ。スキルを全教員が順守し、全教科の土台にし指導している。マンションの一階がスキル、二階が教科に当てはまる。高知県授業づくりベーシックと同じだ。

◎同意を求めながら話すスキル

・「〇〇さんは、～と言いましたよね」と同意を求めながら話させる。

・相手に「～ですよ」と同意を求めながら話させる。

・「～ですよ」「～じゃないですか」と確認しながら話させる。

話し手が同意を聞き手に求めたら、聴き手は何か反応する。この反応こそ、「考察」や「交流」が活発になることにつながる。津野町の小学校1年生の話し合いが活発なのは同意を求める話し方が既に出来ているからだ。